

★今週の聖句

「あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。」
マタイによる福音書 5:37

★ ねらい

- ① 十戒の第2戒「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。」の理解を深める。
- ② 言葉の使い方、人との向き合い方から「誠実さ」ということについて学ぶ。

★ 説教作成のヒント

- ・ 当時は「誓う」という行為に関して、誠実さがおろそかにされ、「誓ったが守れない」あるいは「誓ったが守らない」という「偽りの誓い」が横行する状況にあった。
- ・ 「然り」は「はい」、「否」は「いいえ」と同じ意味である。2回繰り返すことによって、強調の意味を込めている。
- ・ 「誓う」という行為を「約束」として理解してみる。
- ・ 人に対して誠実であることと、神に対して誠実であることが、不可分であることを示す。

★ 豆知識

- ・ 当時の律法学者の間では、誓いの拘束力について論議されていて、神の名にかけて誓われたものは絶対に守るべきものとし、神の名にかけてでないものはその限りではないものとされていた。
- ・ 「天」「地」「エルサレム」「頭」などを指して誓うことによって、その誓いの拘束力はなくなり、破られてもよい類のものになると判断された。
- ・ イエス様は、「天」と言おうと「地」と言おうと「エルサレム」と言おうと、それらはすべて神に関わるものであるから、律法学者たちのそのような解釈は詭弁だと退けたのである。

★ 説教

神様はその昔、「十戒」という「10の掟」を与えました。その中の一つに、「神様のことを、軽々しく言葉にして使ってはけません。神様のことを口にする時には、誠実に話すようにしなさい。」という意味のものがああります。「誠実に話す」という意味は、真剣に、正直に、本気で話す、ということです。それなのに、イエス様の時代には、あんまり真剣じゃなく、正直でもなく、本気でもなく、「神様の名にかけて誓う」ということが行われていたのだそうです。これはいけないことですね。

ところでみんなは、「誓う」ってどういうことか分かるかな？「誓う」という言葉は、「私は必ず〇〇することを誓います」という風に使われます。つまり、「必ずやると約束する」場合に使われる言葉ですね。みんなも、「僕は必ず5時から宿題やるよ。だから今は遊びに行かせて。」とか、お母さんに言ったりしたことがあるでしょう。そういうことを、とつても真剣に、正直に、とつても本気で、それを言いたい時に、「私は誓います」と言うんですね。

でも、誰か友だちが、真剣にでなくて、正直にでもなく、本気でもないのに、そういう約束の言葉を言っていたとしたら、みんなはどんな気持ちになりますか？きっと「嫌だなあ」って思うよね。本

当に大事な約束をしている時に、真剣でなかったり、ふまじめで、正直に言ってくれないことは、不誠実で、いけないことです。けれども、イエス様の時代には、そういうことがよく起こっていたそうです。それももっと悪いことに、当時の人たちは、「神様の名にかけて誓う」とよく言っていたそうです。普通に「誓います」と言うだけでも大変ですが、「神様の名にかけて誓う」と言ってしまったら、もっともっと大変です。それは、「もしも私が約束を破ったら、神様から罰を受けてもいいよ。」と言っているのと同じですね。こういうことを、真剣にでなく、正直にでもなく、ふまじめに言っていたので、つまり、不誠実に言っていたので、イエス様は「そんな風に、軽々しく、神様の名にかけて誓ってはいけませんよ。」と仰ったのです。

よくよく考えてみると、私たちは本当の意味では、「誓う」ということは出来ないことかもしれません。なぜなら、私たちは人間として限界を必ず持っていて、何でもかんでも自分の思う通りに出来るわけではないからです。「必ず守る」と心に思っている、私たちは約束を守れないことがあります。だからイエス様は、相手に対して誠実に約束すべき時には、「はい」と「いいえ」だけで話すのが一番よろしいと仰いました。「〇〇すると約束しますか？」と問われたら、「はい」「いいえ」で答える。軽々しく神様の名にかけて誓うことをせず、また、自分の力の限界を自覚して、へりくだった態度で「はい」「いいえ」で答えることは、約束している相手に対しても、また神様に対しても、誠実な態度だと、そのように言うことができますね。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 1 番

改訂版 1 2 3 番

やってみよう

誓ってはならない

全能の神さまに対して畏れる心を持ちなさい、と教えられています。と同時に子どもたちには一人ひとりをいつも大好きでいてくださる「愛の神さま」であることもしっかり伝えたいですね。この歌を覚えてみんなで歌いましょう！

♪イエスさまがいちばん♪ ゴスペルソングヒット集「友よ 歌おう」より新聞紙の周りをみんなで見つめ、信じる心ボールは落とさないで、信じない心ボールだけを落とす。（2人ずつ、または4人ずつやってもいいし、グループ対抗でやっても盛り上がる）

★今週の聖句

「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」

マタイによる福音書 5:39

★ ねらい

- ① キリスト教が示す生き方として、暴力(する方も、される方も)に反対する立場を明確にする。
- ② 暴力と復讐の連鎖を終わらせ、世界平和を実現する唯一の方法は、自らが暴力と復讐を止めることであることを示す。

★ 説教作成のヒント

- ・ 誰かから自分の右の頬を打たれるということは、(利き手は右と考え、右手で人を打っていると考えるならば) 右の手の平ではなく、右手の甲で打たれているということである。(これはとりわけ相手ははずかしめる行為と見なされる。) そうするとそのまま今度は、右の手の平で左の頬を打たれるというのが、通常考えられる流れである。
- ・ きょうだい喧嘩から国同士の争いまで、「やられたからやり返せ」ではエスカレートする一方である。
- ・ イエス様は自分の意見を主張し、抗議はしたが、暴力に対しては抵抗しなかった。その結果が十字架の死である。しかし、神がその十字架の死を決して無駄にせず、平和のために用いられたということに心を刻んでおきたい。

★ 豆知識

- ・ 「目には目を」「歯には歯を」は旧約聖書(出 21:23-25, レビ 24:19-20, 申命 19:21)にもあるが、古代オリエント最大の成文法典である『ハムラビ法典』の言葉として有名である。同態復讐法または同害報復法と呼ばれる。
- ・ この法は、個人的復讐やあだ討ちを勧めているものではない。人種的偏見などから刑罰の重さが左右されることを避け、公正な裁判により刑罰の程度を定めているものである。
- ・ イエス様は、個人的暴力や攻撃について復讐するなど言っているのであって、公的・法的・社会的な正義が踏みこまれていくことに抗議することを禁じているのではない。

★ 説教

みんなはきょうだい喧嘩をしたことがありますか?きょうだい喧嘩はたいがい、ちょっとした事から始まりますね。小さなことでも「やられたらやり返す」を繰り返していくと、それでとうとう止まらなくなって喧嘩になっちゃう。そういうことはよくあることですね。でも実は、国同士での争いでもおなじことが言えます。「昔ひどいことをされたから」という理由で、他の国の人たちがある国の人たちにミサイルを撃つたりするとするでしょ?そうすると、その国の人たちはまたそれで、ミサイルを撃った国の人たちに恨みを持ってしまうんです。そして「いつか仕返しをしてやる」って思えます。そんな風に「やられたらやり返す」ということを繰り返していったら、いつまでたっても喧嘩は終わらない。争いも終わらない。戦争も終わらないんですね。

イエス様は、「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬も向けなさい。」と仰いました。このビンはきつと、こんな風に、右手の甲で打ってるんですね。これは、普通よりもひどいビンの仕方です。イエス様はつまり、ひどいことをされた時にこそ、「仕返しするのを止めなさい」と仰って

るんです。ひどいことをされた時に「やられたからやり返す」とやっていると、どうしても止まらなくなってしまうからです。だけどこれは、「やられっ放しでいい」というわけではありません。仕返しはしないけども、ちゃんと「そんなことはやめろ」と抗議はしないといけませんね。その抗議の一つのやり方として、イエス様は「あなたの左の頬をも向けなさい」と仰っているんです。これは、「私は決して、暴力は振るわない。やられてもやり返さない。」という強い意志を相手に伝えていることになりますね。それが、「こんなことは早く止めなさい」という、強いメッセージなるんですね。

実は、イエス様ご自身が「やられてもやり返さなかった」人です。そしてイエス様はとうとう、十字架につけられてしまいました。それだけ聞くと、とてもひどい、悲しい話です。でも神様は、そのイエス様の十字架の死を、決して無駄にはしませんでした。イエス様の十字架の死によって、私たちの罪が赦されることになり、そして、地上に平和をもたらす力が与えられることになったのです。

だから私たちも、イエス様に従うならば、「やられたからやり返す」ということをしてはいけませんね。それは、地上に平和をもたらす唯一の方法なのです。イエス様がそれを教えてくれたし、そのための力も与えてくださいます。「やられてもやり返さない」ということは、悔やしくて苦しいことだけでも、イエス様が必ず助けてくださって、慰めてくださいます。イエス様があなたの味方だということ、決して忘れないで下さいね。そして、その悔しさや苦しきは、決して無駄なことじゃないんです。イエス様の十字架と同じように、その悔しさや苦しきも神様に用いられて、何か善いことのために役に立つのです。イエス様の言葉を信頼して、イエス様に従って生きていきましょうね。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

4 5 番

改訂版 1 2 5 番

やってみよう

復讐してはならない

「復讐してはならない」とありますが、聖書が伝えているのは復讐の禁止というよりも、むしろ隣人を愛すること。

毎日曜日、同じ教会で過ごすみなさんに今日は子ども達からバレンタインデーのプレゼントをしてみませんか！

〈 材料 〉

コーンフレークス(甘くないもの)1箱に板チョコレート3～4枚の割合で適量を用意。

飾り(アラザン・カラースプレーなど製菓材料売り場にあるもの)、弁当用アルミカップ

〈 作り方 〉

*チョコをボウルに入れ、一まわり大きい湯を張ったボウルに重ねて湯せんで溶かす。

*溶けたチョコを別のボウルに入れたコーンフレークス全体にゴムベラを使ってまぶす。

*スプーンでコーンフレークスをすくい、アルミカップに適量を入れる。

*チョコが固まる前に上に飾り付けをする。

★今週の聖句

「今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。」	マタイによる福音書 6:30
--	----------------

★ ねらい

- ① 自然は神の創造物であり、自然界の営みの中に神の御心が表されていることを示す。
- ② キリスト教的な生き方として、たとえ現実的には心配なことがあっても、信仰の心においては（神を信頼し、委ねることによって）心配しないということを示す。

★ 説教作成のヒント

- ・ 神は自然界を創造し、維持し、守り導いている。その知恵は完全であり、完璧である。その同じ神が人間界も創造し、維持し、守り導いている。
- ・ 神は「いのち」という大切なものを与えてくださった。「いのち」の権限が神に属しているように、「飲食物」や「衣服」の権限も実は、神に属している。従って信仰とは、創造し、維持し、守り導いている神をすべてにおいて信頼することである。
- ・ 神は人間よりも劣るものを摂理の御手をもって世話をなさる。そうであるなら、人間にはもっと深い配慮をなさるはずである。
- ・ 神の創造の目的は「神の国」と「神の義」に向けられている。従って、「神の国」と「神の義」を求めて生きる人は神の意志に一致しており、すべてのことにおいて神を信頼してよい。
- ・ 「心配しない」ということが神への信仰の表れであり、「神の意志に従う」ということ、「委ねる」という態度の結果である。

★ 豆知識

- ・ ここで言われているのは、神への信頼を否定するような思い煩いについてであって、当然しなければならない家族の将来のための配慮、準備を否定するものではない。
- ・ 「野の花」は、パレスチナ平原の至る所で咲き誇る、野生のアネモネを指すと言われている。この花は一日しか咲かず、枯れると焚き付けにされていた。

★ 説教

私たちの「命」とか「身体」は、神様がお創りになって、私たちに与えてくださったものです。動物とか植物も、みんな神様がお創りになったものです。神様はこの地球をお創りになり、動物たち、植物たちが、みんなで生きていけるように、すべてのものを創られました。小さい動物は、大きな動物に食べられます。でも、大きな動物が死ぬと、その身体は小さいバクテリアたちに食べられていきます。そうやって、バランスが取れているんですね。それから動物はみんな、酸素を吸って二酸化炭素を出します。その二酸化炭素を植物が吸って、酸素を出してくれます。動物と植物との間で、完全なバランスが取れています。神様が完全な知恵でもって、完璧に創られたからです。

神様はそのように、自然の世界を完全にお創りになって、その中で生きている鳥たちや植物たちのことをみんな知っておられます。そして、ちゃんとお世話をしています。だから小鳥たちは元気にさ

えずるし、野の花もきれいに咲いているんですね。そして、私たち人間のことも、自然の生き物たちのことを見てらっしゃると同じように、神様は見ておられます。ちゃんと私たちのことも考えて、お世話なさっています。神様がお世話なさっている姿というのは、私たちの目には見えません。でも、イエス様は、こう仰います。「神様は、小鳥や野の花よりもずっとずっと、あなたたちのことを大切に考えておられる」と仰っています。このイエス様の言葉を信じて生きていきましょうね。神様は私たち一人ひとりの人生をもお創りになっていて、導いておられます。

どうなるか分からない時、自分が望んでいない状況になりそうな時、不安になったり、心配になったりしますよね。でもそんな時にも、神様のことを信頼していきましょう。イエス様が仰ったように、私たちの人生は神様が責任もってお世話して、導いて下さっているのですから、本当は何も、心配する必要はありません。神様のお導きがあることを信頼して、安心して、神様の御心に委ねていきましょう。神様が知らんぷりなさっていることはありません。神様は必ず、みんなのことを知っていて、ちゃんと導いてくださっています。

神様が人間をお創りになった目的は、「神様の国」を実現して、「神様の御心」（「神の義」というのは「神様の御心」という意味です）を実現するためです。神様はどんな時でも、そのために私たちを導いてくださっています。もしかすると、時には、「神様はどうして助けてくれないのか」とか「どうして神様はこんな目にあわせるのか」と思うこともあるかもしれませんが。でもそういう時でも、神様は、その経験を通してみんなを「神様の国」へと導き、「神様の御心」を実現するために、敢えてそのように為さっているのです。神様は必要なことしか為さしません。今日のイエス様の言葉を信頼して、どんな時にも心配しないで、神様の御心に信頼して、お委ねする気持ちで生きていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

103番

改訂版58番

やってみよう

思い煩うな

空の鳥、野の花（私たちの周りの生き物、自然）が神さまの御手によって、環境に適した美しい姿に創造され、いのちを与えられ、そして育まれていることを子どもたちと分かち合いましょう。

～活動例～

- ★ 図鑑や写真などで色々な動物や植物を見る。
- ★ 一つをクローズアップして取り上げる。（先生自身が飼っているネコについて、など）
- ★ 身近な動物、または植物を実際に見たり触れたりする。
- ★ 自然をテーマにしたドキュメンタリー映像を鑑賞する。

聖書には「今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。ましてあなたがたにはなおさらのことでないか・・・」と記されています。私たちが、どれ程神さまに愛され守られている存在か知り、神さまの愛の中で安心して毎日を過ごせるように祈りましょう。

★今週の聖句

「わたしのこれらの言葉を聞いて行なう者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。」	マタイによる福音書 7:24
--	----------------

★ ねらい

- ① イエス様の言葉を「聞く」だけに留まらず、「行なう者」になるように励ます。
- ② 人生には必ず試練がやってくる、その時に倒れないように「家」を建てるのが大切であることを示す。

★ 説教作成のヒント

- ・ イエス様は、イエス様の言葉を聞く者たちが、それを「行なう者」となることを望んでいる。
- ・ 「家」は人生になぞらえられている。「家を建てた」ことは共通しているが、その建て方が問題にされている。
- ・ 「家」というものはすぐにできるものではなく、完成されるまでには時間がかかる。種々の材料を集め、それぞれの部屋を作り、完成されると人はその中に住む。それはちょうど、人が成長し、様々な人生経験を経て、自分の人生観を築き上げ、それに基づいて生きるのと同じである。
- ・ 普段私たちは、土台よりも家がどうなっているかの方に注意が向いてしまうものである。しかし人生の嵐は、賢い人にも愚かな人にも共通にやってくる。その時にこそ、その人の真価が容赦なく明らかにされる。真価は家にはなく、土台にこそ存している。

★ 豆知識

- ・ この箇所は「山上の垂訓」全体の結びにあたる部分である。従って、「わたしのこれらの言葉」というのは、これまで語られた「山上の垂訓」を指している。
- ・ やってくる「嵐」の最終的なものは、キリストの再臨に続いて起こる「最後の審判」である。本当に問題なのは、生きている間に持ちこたえることではなく、最後にやって来る「神の嵐」の前で持ちこたえられるかどうかである。

★ 説教

みんなは家を建てている所を見たことがありますか？家を建てる時は、屋根とか壁から作ったりせずに、土台の方から作りますね。なぜそういう順番になるかという、土台が一番大事だからです。日本には台風、地震、そして地震が起こると、海から津波が押し寄せてきたりもします。大雨が降ると、洪水になることもあります。そうした時に、土台がしっかりしていない家は、すぐに倒れたり、大水に流されたりしてしまいます。家を考える時に何が一番大事かという、見た目の綺麗さや、住み心地のよさではありません。まずはその家が丈夫で壊れないかどうかです。

イエス様は、「賢い人は岩の上に家を建てる」と仰いました。それは、「丈夫で壊れないように家を建てる」という意味です。このことは実は、みんなの人生のことを表しているんですよ。みんなが子どもから大人になって、人生を生きていくっていうことは、つまり、自分の「家」を建てて、その中に住んでいくっていうことに似ています。そういう意味では、みんなは今、自分の「家」を建てる準

備をしている所ですね。家を建てる時には、木材や鉄筋コンクリートなどを用意して、そして、どんな風に部屋を作るかとか、色んなことを考えないといけません。それはつまり、みんながどんな職業に就くか、どんな人と結婚するか、どんな人と友だちになっていくかっていうことです。じゃあ、家を建てる時の「土台」っていうのは、みんなの人生の中で言ったら、どういうことに当たるのかな？

「土台」っていうのは、難しい言葉で言うと、「価値観」とか言われたりするものですね。それはつまり、みんなが人生の中で、何を一番大事なことと考えるかっていうこと。言い換えると、何のために自分は生きるのか、人生に意味や価値を与えるのは何だと思うか、ということ。それをみんな、大人になるまでに自分で考えて、自分で答えを出さなくてははいけません。それがみんなの家の「土台」になるものです。いくら立派な職業についていても、立派な家庭を築いていても、そういうことをしっかり考えていない人は、「土台」がグラグラしている人です。人生の中では必ず、大変なことが起こったりします。思いがけず苦しい目にあったりします。そういう時に、「土台」がしっかりしていない人は、すぐに倒れてしまいます。

そこでイエス様は、「わたしの言葉に従うこと、それを土台にしてください」と仰いました。実は先生の土台もそうです。イエス様の言葉に従って生きること、このことを人生で一番大切なことと先生は考えています。そうするとこの「土台」は、人生でどんなことが起こっても決して揺るがないし、壊れません。どんなことがあっても、みんなの心を励まして、支えてくれます。だから先生はみんなにも、「イエス様の言葉に従って生きる」っていうことを、「土台」にして欲しいって、そう願っています。みんながこれから大人になっていく間に、こういうことを考えていってみたいですね。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 1 番

改訂版 1 2 3 番

やってみよう

家の土台

家を建てる時の「土台」とは何かを知る。

～活動例～

★ 空き箱で家を作る。紙の人形(立つように工夫する)を用意して家の中に置く。平らなテーブルの上、柔らかいクッションの上、物が置いてある不安定な場所など色々なところに家を置いてみる。中の人形はまっすぐ立っていられるでしょうか。そっと置いた場合は大丈夫でも、何かが起こった時（土台となる部分に振動を与える）には、どうなるか試してみる。

★ 「土台」をよりわかりやすくするためにはブロック(おもちゃ)で家を作り、同じブロックの基板を土台としてしっかり固定するのも良いでしょう。

聖書では、私たち自身を「家」に例え、その土台(信仰)がいかに大切かを教えています。

子どもたちと共にこの日与えられたみことばに感謝しましょう。